

秋田県
退職校長会

会報

題字 秋田師山 書

第 100 号

秋田市手形学園町1-1
秋田大学教育文化学部
同窓会旭水會 内

令和5年3月25日 発行

秋田県退職校長会



「言葉の壁」

秋田県退職校長会副会長 望月伸哉

初めて間近に外国人を見たのは高校生のときでした。汽車通の帰り、駅のホームに人だかりがしているのを見てみると、列車の中に外国人家族が乗っていました。窓側の席に4・5才の女の子が座ってにっこりしながらこちらの群衆を見ていました。髪が白くおかつぱで、パッチリした目をしており、人形のように可愛かった。列車が去ってから「あの子はドイツ人だ」「いやいやフランス人だよ」などしばらくどよめきが収まらなかつた。あの子はどんな言葉を話すのだろう、外国に対する興味、憧れを抱くようになりました。

中学校の英語教師として二十数年過ごすことができましたことはとても幸せでした。今の先生方と違い、授業準備に多くの時間を割くことができたからです。英語指導助手AET（現在はALT）が初めて県に配置され、一緒に授業をやることになったときは困惑しましたがいい経験になりました。授業の時は教室の後ろも廊下も黒山の人だかりでした。

子どもたちに生の英語を聞かせたいと思い、八幡平あたりを歩いている外国人を捕まえては学校に連れて行くこともありました。子どもたちは片言の英語で質問攻めにし、受ける彼らも大満足でした。その後、市町村や学校に多くのALTが配置され、英語教育の環境は大きく変わりました。

しかし、中高六年間、中には大学でも数年英語を学

習しても「何の役にも立たない」とぼやく人が多いようです。「外国に行つたけれど学校で習った英語は全然通じなかつた」と言う人もいます。本当でしょうか。スラスラ話したり、読むことはできなくてもほとんど日本人は相当量の英単語を身につけています。他の言語、フランス語や韓国語の知っている単語と比べればいかに膨大な量か分かるはずです。簡単な文を話すこともできます。それを活用しない手はありません。

現在、日本にもウクライナから避難してきた人が大勢います。多くの方は日本語の壁に悩んでいるそうです。彼らは日本人が英語を理解するとは思っていないようです。そんな人たちに「日本の高校生以上の若い人はある程度英語が分かるから英語で話しかけるといいですよ」とアドバイスしたい。

昨年十月に行われた秋季研修大会で講師のタベルスキ氏の経歴に「英語教師」とあったので、「どこで英語を勉強したのか」と尋ねたら、「ポーランドは多くの国と国境を接しているのだから自然に覚えた」とのことでした。日本はポーランドやウクライナと地理的環境が大きく異なるので英語を自然に覚えるという訳にはいかない。しかし、学校で習う英語が全く役に立たないということは絶対にないと思えます。授業方法も進歩しているし、現場の先生方に自信をもって突き進むようにエールを送りたいと思います。

今年、三年ぶりに開催された東北地区退職校長会協議会「岩手大会」に参加する機会を得た。

東北六県が共通して課題と捉えているのは、会員数の減少問題であった。中には入会してはみたものの何のメリットもないということとで一身上の都合を理由とする退会者が増加しているという県もあった。これは、本会の存続に関わる憂慮すべき状況である。

全国連合退職校長会は、国に対して今教育が抱える様々な要望をあげ、全ての子供たちがきめ細かな教育を受けられるよう働きかけている。

その内容は、文部科学省への「子供一人一人の学びの保障に関する要望」、「学校教育の充実・振興に関する要望」、厚生労働省への「高齢者の健康保険料・介護保険料等の負担過重への配慮」、「年金・医療・介護等社会保険制度の改革要望」、総務省への「退職教職員の生活安定の施策・年金受給者への課税増等による税負担への配慮の要望」と多岐にわたる。

このような働きかけは、本会の「日本の教育の振興に寄与し、会員の福祉の増進を図ること」を目的とする活動の一つであり、学校教育の充実・振興を図るための応援団としてこの活動を支えることは有意義なものであるということへの十分な理解が得られていない

と言えるのかもしれない。

本県では半数ほどの郡市退職校長会の加入率は100%であるが、学校統合等により校長の数が減少してきており、未加入者の増加と相まって会員数は減少傾向にある。

県は、ベテラン職員の知識や経験、専門性を行政運営に生かそうと、教育庁関係職員も対象として、来年度から二年ごとに一歳ずつ定年を引き上げ、令和十三年度には六十五歳まで延長する方針であると聞く。

六十歳になった職員を原則として管理職から外す「役職定年制」も導入される。

「思案の日々」

秋田県退職校長会

常任理事

高田

均

働きかけの時期を見直す必要も出てきた。

長年教育に携わって、学校経営の重責を果たし、心の奥底に「教育振興」の熱い魂をもった仲間が集い、気軽につながりあい語り合ってきたステージの生活をますます豊かで充実し楽しいものとしようと入会の働きかけをしてきてはいるが、これまで以上に退職校長会に在籍することの意義や良さを感じてもらえる取り組みはどうあるべきか、思案の日々である。

県事務局だより

事務局長 米澤 喜彦

今年度実施した主な事業

4・14 令和3年度監査 協働大町ビル

5・6 県理事会・総会 書面決議

6・7 全連退理事会・総会 同時開催

7・9 郡市会長・事務局長合同の会

7・30 全連退会報第224号、県会報99号の発送

10・3 全連退会報第225号の発送

10・4 全連退理事会 中止

10・13 第48回東北地区退職校長会

協議会岩手大会 一日開催

10・22 第42回秋田県秋季研修大会

11・1 あきた教育の日

(関係各所へお願いの葉書を送付)

2・20 東北地区情報第11号を各郡市事務局へ発送

2・21 賀詞を各郡市事務局へ発送

3・25 全連退会報第226号、県会報100号、全連退年間紀要発送

※他に全連退からの調査報告等を行っている。

郡市だより

Ⅱ鹿角だよりⅡ

今年度のあゆみ

事務局長 吉田 啓一

○第一回理事会開催 令和四年四月二十一日

・総会の開催を検討したが、コロナの収束がみられないため、開催を断念する。

・会員には、昨年同様、書面による表決を依頼し、各事業の実施については、状況の推移をみて検討を進めることとした。

○総会中止・表決依頼状発送 四月二十八日

○第二回理事会開催 六月二日

・六六名の回答者全員より、報告・認定等全議案が承認されたことを報告

・教育懇談会に向け計画を進めるとした。

○臨時理事会開催 八月二日

・県教育委員会教育次長の和田渉氏を講師に九月二日「教育懇談会」を開催することと決定。野外研修会は中止とした。

○第三回理事会 八月二十三日

・教育懇談会の開催内容の検討

・「郡市会長・事務局長合同の会」の報告

○教育懇談会《現職校長会共催》 九月二日

講師 教育次長 和田 渉氏

「本県学校教育における現状と課題」最適解から最善解へ」をテーマに最善解を求めて進む「チーム教育庁」の意気を熱く語っていただいた。現職校長の学校経営に生きるとともに現場を退いた我々にとっても貴重な学びの機会となった。

(参加四十一名)

Ⅱ大館北秋田だよりⅡ

三年ぶりに開催できた合同研修会

事務局長 佐藤 久生

四月総会は新型コロナの影響で中止する。

現職校長会との合同研修会は、行動制限も解除され様々な活動が再開されてきたことから、十一月二十六日(土)プラザ杉の子を会場に、現職二十七名を含め、計六十七名の参加を得て開催できた。開会行事では今年度めでたく傘寿(八十歳)を迎えられる四名を紹介し、一名に長寿者祝い品を贈呈した。続いて二、四年度の新入会員を紹介した。

発表者二名を予定していたが、現職が急遽参加できず、退職者一名となった。発表者は小林一彦氏、大館市立第一中を退職、教職員支援機構の中央研修講師、県小・中学校進路指導研究会の名誉会長を務める。「大館ふるさとキャリア教育」の第一人者であり、多くの学校で講演をしている。発表題は「今以上の未来を創り、力強く生き抜くための追究型学習Ⅱ『教わる』からの卒業」。追究型学習の発想の意味するところ、キャリア教育の捉え方や在り方など示唆に富む内容で、退職・現職共に研修を深めることができた。

研修会後、酒類を伴う懇親は見送り、昼食会で交流、次回の再会を約束し閉会とした。

同日、地区会報第十七号を発行、『会員からの声』短信』には多くの声が寄せられた。

Ⅱ能代市山本郡だよりⅡ

今年度の主な事業を振り返って

事務局長 佐藤 敬顕

今年度も新型コロナウィルスの感染状況に鑑み、年度当初に計画した多くの事業を中止せざるを得なく、文書による周知や情報提供が主となった。

①総会(4月23日開催予定↓中止)

事前に行われた理事会での審議をもとに決算・予算案や事業計画案を全会員に書面にて提案したところ、すべての事項で承認となった。新入会員八名の歓迎会を兼ねていただけに、中止となったことは甚だ残念であった。なお12月1日現在の会員数は、名誉会員二十五名を含む百八十三名で、ここ数年ほとんど増減なく推移している。

②教育懇談会(7月29日開催予定↓中止)

現職校長会と共催で3年に2回行ってきた合同研修会で、講演を拝聴した後に懇親会を行う予定であったが、中止を余儀なくされた。現職校長との貴重な交流の場であり、来年度こそは開催できることを願っている。

③各種会合・会報等

正副会長・幹事会を2回、会長・幹事会を4回、世話人会と理事会を各1回開催し、本会及び県退職校長会の活動状況の把握に努めた。また6月に事務局だよりを、12月に会報を発行している。

Ⅱ男鹿市だよりⅡ

本会の特色ある活動

事務局長 浅井 繁樹

まずは、本会の慶弔規定にある特色ある活動を紹介したい。会員が教育功労叙勲の際は、本会が主催者となり多くの方々を招き、祝賀会を開催することになっている。また、会員が逝去されると、会長が会葬に参列し弔辞を奉読する。最近はコロナ禍で家族葬が増え、ご遺族が弔辞を辞退されたり、自宅の遺影前で奉読することもあった。これらは会員数が少ない会だからできることである。

令和四年度は、四月初旬に五月七日に開催する総会・研修会案内を会員に発送し、二十二名(会員の三十七%)が出席予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染者が男鹿市内で急増し、学校や施設等でクラスターが多数発生したため、直前に開催を中止し書面決議とする決断をした。総会を中止したのは今回が初めてである。書面決議は、総会資料及び同意書を会員に送付して滞りなく終了した。そして、五月十八日、役員会を開催して、総会成立を最終的に決議した。

開催ができたのは役員会とランドゴルフ大会である。ランドゴルフ大会は、六月二七日に大潟村で開催した。今年度は十回記念大会として他団体を招待し、豪華賞品を準備して開催することができた。

Ⅱ秋田市だよりⅡ

今年度を振り返って

事務局長 加賀美 俊一

今年度、三年ぶりに四月に予定していた総会は、残念ながら新型コロナウイルス感染状況を考慮し中止となった。昨年度に続き総会に代えて理事会を開催し、事業計画や予算等を協議し承認を得て活動をスタートした。

十一月に予定していた現職・退職校長会教育懇談会は、新型コロナウイルス対応で多忙を極める学校現場に配慮し、三年続けて延期となった。計画していた「楽しい研修」では、「陶芸体験」と「名酒を味わう会」を実施することができた。特に「名酒を味わう会」は、三年ぶりの開催となり、参加者は、楽しく語らう時間を過ごした。

年二回発行している会報では、「交流の窓」コーナーで、できるだけ会員の声を掲載できるように努めている。

昨年度よりは活動できたとはいえ、集って活動することが難しい状況が続いている。令和五年度は、余程新型コロナウイルスの感染状況が悪化しないかぎり、総会や現職・退職校長会教育懇談会は実施する方向で準備を進めている。会員が集う機会を大切にしていきたいと考えている。

Ⅱ由利本荘・にかほだよりⅡ

来年度の活動に向けて

事務局長 阿部 潜

令和四年度は、三年ぶりに「総会」を開催することができた。三役・幹事会と理事会で話し合いを重ね、開催にこぎ着けた。参加会員からは、「家族会議を経て参加を決めた」等の声も聞かれ、決定するまで多くの会員がかなり迷ったようだった。当日は、五十四名が参加し活動予定や予算計画について意見を申し合った。また、総会後に前県教育長の米田進氏をお招きして、講演会も行うことができた。

七月の理事会では、総会同様に三年ぶりの「退職・現職校長交流研修会」開催を決定した。退職・現職双方の情報提供という形で、十月実施に向けて準備を進めた。研修会参加の返信はがきが集まる中、九月中旬に両会長が話し合い、残念ながら研修会を中止することにした。

年間の大きな活動を二つとも実施することはできなかったが、令和五年度につながる確かな一歩だと思う。三月には第一回理事会、四月下旬には総会を行う。どちらも懇親会付きで計画している。「会員相互の親睦を図る」という本会の大きな目的が達成できるような一年になることを祈りたい。

Ⅱ大曲仙北だよりⅡ

この一年を振り返って

事務局長 佐藤 心一

コロナ禍のため令和四年度も三年連続の総会は紙上報告となりました。

同好会では、グランドゴルフが二回、新体制での麻雀(M-CUP)が数年ぶりに再開されて二回、ゴルフ(G-CUP)も新体制で二回、そして新たにスキー同好会が誕生し、二回たざわ湖スキー場で和気藹々の会員の交流・研修となりました。

更に本会独自の地区持ち回り「研修視察旅行」は、今年は大曲地区の担当で、十月六日に十四名の参加で、「今日は一日、花火三昧」をテーマに行いました。はじめに、大仙市四ツ屋にある「響屋大曲煙火株式会社」を訪問し、花火作りについて副社長さんより実際の現場で説明を受けました。一同感動の連続でした。次に、「花火伝統文化継承資料館」はなび・アム」で、「大曲の花火はなぜ日本一か？」の講話を拝聴し、その後「はなび・アム」を見学しました。最後に、居酒屋「北野水産」にて、蕎麦定食を黙食しながらも、にこにこ笑顔で懇親を深めました。担当者の創意工夫で、充実の半日となりました。

会報「玉穂」で新入会員の思いの丈を述べていただけてますが、令和五年度は新入会員歓迎の総会開会の方向で検討しています。

Ⅱ横手市だよりⅡ

この一年を振り返って

事務局長 石川 真須夫

○第一回役員会(四月十三日)

終わる気配が見えない新型コロナウイルスの感染。開催を予定している総会や懇親会の持ち方について話し合い満場一致で中止を決定。前年度の会務報告や決算報告、今年度の事業計画や予算案等については、昨年度にならい書面による決議にさせていただくこととし、会員に周知することを確認。

○第二回役員会・会報編集会議

(六月二十二日)

現職校長会との「教育を語る会」の開催可否について退職校長会としての対応について協議。コロナ感染者が増えつつあることから中止せざるを得ないとした。また、会計担当者が退任したことで、役員立会いの下、後任者と引き継ぎをする。

年に一度の会報発行であるが、会員相互の情報交換、会員の繋がり場としても大事にしているので執筆依頼者の選定や紙面構成について協議した。

○終わりに

事業らしいことは何一つ実施することが出来ないでいる。今後、会のあり様について検討が必要と考えている。

Ⅱ湯沢雄勝だよりⅡ

今年度の事業を振り返って

事務局長 滑川 道彦

令和4年度も新型コロナウイルスの影響を受け、期待していた現職との合同研修会・懇親会、同時開催を予定していた県南教育懇談会も実施できず残念な1年でした。しかしコロナの感染防止対策を取りながら、総会、親睦レクリエーション・新入会員歓迎会を開催できたことは大きな収穫でした。

萌友会の総会は、市役所の会議室を会場に実施しました。令和3・4年度入会の新会員から、一人一人挨拶をいただき、都合で欠席された方の分はハガキを読んで紹介しました。これでやっとスタートを切ることができたという思いでした。8月の幹事会で今後のことについて話し合い、会報「萌友」の発行、親睦レクリエーションについてはコロナ感染の状況を見て実施することとし、その際に新入会員の歓迎会も行うことを決めました。10月、感染防止対策を十分ににして、和気藹々とパークゴルフを楽しみました。その日の夕方に開催した新入会員歓迎会では、退職後の生きがいなどについて懇談しました。会報「萌友」紙上の会員からの短信欄では味わうことができない、会員同士の生の会話を充分楽しむことができました。

会報第100号に寄せて

我々らしい100回の刻み

秋田県退職校長会会長 高橋 一郎

会報第1号は手元にはない。だが、第77号には水戸谷貞夫会長が、会報第1号の高瀬忠廣会長の巻頭言を紹介していた。『童心に返ろう』と題されたその文を抜粋しながら辿ってみると、「第一線を退いた者は、活動が消極的になり、社会から置き去りにされがちである。それでも社会のために活動し、信頼と尊敬を勝ち得ることである。」そして「老後を生きる意欲と希望を持つて、私心のない童心に返りたいものである。」と論じている。

第1号の発行が創立7年目であったとすれば、先日50周年を記念した令和元年、今は令和4年であるから、100号はほぼ年2回発行の回数と合致する。約50年の間に蓄積された会員の声がこの会報の中で響き渡っている。当時の会長や役員の方々がどのように現状を捉えて、指導的な役割を果たしていたのか。各郡市の事務局の方々の労苦などもひしひしと感じられてくる。会員の皆様が発信される、教育に対する考え方や退職後の社会に対する働きかけ、老後の生き方の道しるべなど、会員が果たしてきた役割が会報には色濃く刻まれている。まさに、100回に渡った会員の記念誌である。

高瀬会長の話された「童心」とは何であったのか。問う術はないが、老人の頑固、強情、偏屈などの醜い面から脱却して、老人ならではの、角のとれた円熟さを、童の心に立ち返りながら、高所から論じ合ってみるのも、我々らしくて良いのではないかと、自戒している。

思い出に残るできごと

秋田県退職校長会顧問 千葉 昭

秋田県退職校長会に関わってから特に印象に残っている出来事の一つ目として、平成十九年(2007)に実施された全国学力・学習状況調査で秋田県の小・中学生が全国トップクラスの成績だったことです。当時は思いも寄らない驚きのニュースでしたが、現在まで十三回連続トップクラスを続けていることです。秋田の「授業力」「秋田型探究学習」は全国でも注目されています。

二つ目に、平成二十年(2008)十一月四日「あきた教育の日」制定記念フォーラムが開催されましたが、次第に「教育の日」の活動が停滞気味だった打開策として、平成二十七年(2015)ポスターの配布や会報の一面下段に標語を白抜きで挿入し、意識の高揚を図りました。

三つ目に、平成二十四年(2012)秋季研修大会で「フクシマは今」と題した車田福島県公立学校退職校長会会長の講演が忘れられません。当時の佐藤重義会長の提案で福島

支援募金活動が満場一致で承認されました。会報83号福島支援募金特集が平成二十六年(2014)八月一日に発行されました。会員の心温まる支援と底力に感銘を受けました。

最後に、令和元年(2019)十月、県退職校長会結成五十周年記念式典・シンポジウム・祝賀会開催。「秋田の教育、明日をみつめて」の記念誌発行は、教員大量退職時代の真つただ中にあつて、秋田県教育の継承に大きな役割を果たすものと確信しています。今後とも、秋田県退職校長会会報は、各郡市退職校長会との連携を密にし、秋田県教育の振興に寄与するとともに、会員相互を繋ぐ重要な役割を担っています。

学びは無事か

秋田県退職校長会顧問 佐藤 俊彦

会報が、100号に達した。ここ三年間は、前代未聞の大きな障害(コロナ)によって、本会の活動は制限されており、これまでよりも「会報の存在感」が増したような気がする。

このコロナ禍の中、私が最も心配しているのは「子どもたちの学び」である。これまで全国的な一斉学校閉鎖や、市町村ごとの学校閉鎖が行われたが、個別の学年閉鎖や学級閉鎖はまだ続いている。担任教師たちの陰の努力(負担)は非常に大きなものであった。学習の遅れを取り戻すことはもとより、検温や消毒といった新たな業務が続いていたのであ

昭和四十四年 第一回総会（結成総会）開催
会員数七十九名（個人加入）
昭和四十五年 全国連合退職校長会加入
昭和四十八年 退職校長会への入会のお勧め
昭和四十九年 各都市退職校長会の連合体として組織替えを実施
*七郡市でスタート、昭和五十四年に全郡市加盟

会報発行までの退職校長会の歩み

る。さらに加えて、対面の授業ができない場合を考慮して、リモート授業を含むICT教育を展開するため、国は一人に一台のパソコンやタブレットの普及を促進させるよう指導した。しかし、子どもたち全員にタブレットが配布されても、十分な研修もなしに授業を行わなければならない教師たちは、どんなに不安を感じていることだろう。

一方、アメリカでは、「リモートによる学習」が増えたことによる『学力低下』が問題視されるようになった。コロナ禍四年目に入らんとしていく日本の教育においても、『学力低下』が顕在化するという予想もある。

この春も、様々な教育的課題が浮上するだろうが、私たちは常に「秋田の教育」を応援し続けていきたいものだ。くれぐれも、大人の時間暇論で、「子どもの真の学び」を曲げてしまうことだけは避けなければならない。

秋田県退職校長会 会報の発行と主な出来事

※会報第64号～99号（第63号以前は散逸）、結成三十周年記念誌、結成四十周年記念誌などの資料を参考に、分かる範囲内でまとめてみました。

年度	NO.（*は推測）			会報の発行と主な出来事（記念誌・実践記録集等も記載）
昭和 51		1		会報第1号発行 題字初代会長高瀬忠廣先生 第4回東北地区協議会開催
52	2	3		会報第2号発行 年2回発行となる
54	6（1回のみ）			結成十周年記念式典・会報第6号特集号発行 第1回秋季研修大会開催（記念講演 佐々木喜久治秋田県知事）
57	11	12		第10回東北地区協議会開催
58	13	14		日本海中部地震
59	15	16		第6回秋季研修大会にて結成十五周年記念シンポジウムを開催（阿部正三先生司会 南・北・中央より会員各1名）
63	23	24		第16回東北地区協議会開催
平成元	25	*26		会報第25号発行 結成二十周年記念式典・記念誌発行
4	*31	*32	*33	※平成12年まで年三回発行と思われる
6	37	38	39	会報第37号～39号発行 第22回東北地区協議会開催 生涯学習実践録集第一集「私の生きがい」 発刊
7	40	41	42	会報第40号～42号発行
9	46	*47	*48	会報第46号発行 生涯学習実践録集第二集「生きがいを求めて」 発刊
11	*52	*53	*54	結成三十周年記念式典・記念誌発行
12	*55	*56	*57	第28回東北地区協議会開催
13	*58			※7月に郡市会長・事務局長合同会議で会報を年二回にという要望出される
14	*59	*60		※以後現在まで年二回発行と思われる 第1回「教育の日」 制定準備委員会開催
16	*63	64		生涯学習実践録集第三集「生きがいを求めて」 発刊
17	65	66		第1回「あきた教育の日」 制定推進大会開催
18	67	68		第2回「あきた教育の日」 制定推進大会開催 第34回東北地区協議会開催
19	69	70		第3回「あきた教育の日」 制定推進大会開催 全国学力・学習状況調査はじまる
20	71	73		「あきた教育の日」 制定記念フォーラム開催 「あきた教育の日」を定める要綱施行
21	73	74		結成四十周年記念式典・記念誌発行 会報A4版となる 「学校紹介」掲載開始
23	77	78		東日本大震災
24	79	80		第40回東北地区協議会開催・第34回秋季研修大会（記念講演 車田喜宏福島県公立学校退職校長会会長）
25	81	82		福島県公立学校退職校長会支援募金はじまる 「会員の声」「作品紹介」掲載開始
26	83	84		会報第83号発行（福島支援募金特集） 題字秋田師山先生 国民文化祭開催
27	85	86		「あきた教育の日」ポスター制作 東北六魂祭開催
30	91	92		第46回東北地区協議会開催
平成 31/ 令和元	93	94		結成五十周年記念式典・記念シンポジウム『「秋田ブランド」創造の教師たち～日本一の先生がいた～』（有本昌弘東北大学大学院教授 山本佐江帝京平成大学准教授 ほか会員2名） 結成五十周年記念誌「秋田の教育～明日を見つめて～」発行
2	95	96		コロナ感染症のため秋季研修大会中止（会報第96号特別企画 コロナ禍における学校教育）
3	97	98		コロナ感染症のため秋季研修大会中止（会報第98号特別企画 教育現場におけるICTの活用）
4	99	100		会報第100号発行

秋季研修大会

《研究主題》

「退職後の生きがいや在り方を求めて」
 会員同士の親睦を図りながら、
 長寿社会に対応した生き方の
 研修をする」

第42回秋田県退職校長会秋季研修大会が十月二十二日(土)、協働大町ビルを会場に、各郡市からの会員合わせて五十八名の参加を得て開催されました。ここ二年間はコロナ感染症のために中止を余儀なくされ、三年ぶりの開催となりました。また、通常のかたちで講演と研究発表を実施するのは、平成29年以来となりました。

高橋一郎会長からは、懐かしい方々とお会いして本当にこういう日が早く来ることを願っていたこと、皆さんにこうして集まっていたいただいたことへの感謝の言葉がありました。また、講演者のタベルスキ・マイケル氏と、研究発表者である湯沢雄勝の大山史子先生には、待たせて



しまったことへのお詫びの言葉がありました。そして来年度は何とかスタートから順調にやっ
ていきたいとの決意を述べました。

全体会後の講演会は、終始なごやかな雰囲気
で進みました。

講師のタベルスキ・マイケル氏は時折、県南の言葉を交えながらユーモアたっぷりにお話しされました。しかしこれまで苦労なされた経験からは、あきらめずに頑張ったマイケル氏の強い信念を感じましたし、また、地元秋田の人たちを含め、多くのまわりの支えがあったことを改めて感じました。

マイケル氏は今でも現状に満足せず新商品を開発するなど活躍されております。その姿勢にはとても感銘を受けました。とても充実したよいひとときを過ごすことができました。

大会終了後は、懇親会を開催致しました。久しぶりに再会した喜びを噛みしめながら近況など確かめ合いました。



講師紹介

(略歴)

- ◇氏名：タベルスキ・マイケル (Taberski Michal)
- ◇出身：ポーランド共和国 ポズナン市
- ◇学歴：平成12年6月 ポズナニ第3高等学校理数・英語科卒業
平成12年10月 国立アダム・ミツキエビッチ大学物理学部入学
平成15年6月 同大卒業
- ◇趣味：料理、音楽

(主な職歴)

- ◇平成15年8月 秋田に移住
- ◇平成16年7月～9月 仙北町国際チャレンジ活動 月2回 英語指導講師
角館町・田沢湖町観光ネットワーク推進事業
外国語講座英語講師
- ◇平成16年8月～平成19年5月 タニタ秋田株式会社勤務 企画グループスタッフ等
- ◇平成19年6月～平成25年6月 株式会社キカワ勤務 国際事業部マネージャー等
- ◇平成22年1月～ 株式会社IMI勤務 代表取締役

講演

演題 「秋田発ソーセージ革命」
 講師 株式会社IMI
 ポルミート代表取締役

タベルスキ・マイケル氏

ポーランドから秋田へ

最初来たとき、どこに来たかさっぱり分からなくて。「秋田さ行く。」と言われても……。東京から、仙台出るともうトンネルばかり、山ばかり。どこさ行くのかな？で、盛岡に着いたんです。ここなの？と聞いたらいや、まだです。新幹線が急に猛スピードになってしまつて。雫石、田沢湖……。運命が終わったなと思つたんです。まずあきらめて、角館、大曲着いたら、「ここだよ。」「俺帰る。」大曲降りて、それで、妻の実家さ行つて、着いたら窓を開けて。三つの窓あつたんですけど、田んぼ、田んぼ、田んぼだけ。「ここに住めるのかな？」と不安のスタートだったんですけど。



ゼロからのスタート

まず来たんですけど、言葉はゼロからスタートです。でも、ゼロからスタートというのは言葉だけではないんですよ。トイレさ

入つてそのスリッパで出る、くだらない話ですが。例えばビール飲んで、8月に来ましたから枝豆が出て、「どうぞどうぞ、枝豆食べてください。」で、私、皮のままでむしゃむしゃ食べた。なんかまずいなと思ひながら。みんな、「あつはつは！」と椅子から落ちたりする。何一つ分からない。赤ちゃんみたい。みんな、ゼロから覚えた。言葉が一番の問題だったんですけど。

本格的に仕事を探し始める

タニタ秋田株式会社を退職し、株式会社キカワに入社するがうまく行かなかった。

その時に私はちょうど28歳。一社目だめだな、何もできませんでした。頑張つてもなんともならない。二社目、まただめだ。28歳で私の人生の後ろを見たら本当に何も実績なくて。鬱まではいかないけど、何か本当に、「何だってな、この人生って。」と思ひながら。私が最初来たときの「俺帰る。」っていう気持ちじゃ全然変わらなかったんですね。「秋田って人住む所じゃねえぞ。」ってずっと思つて。21歳から28歳までずっとその気持ちです。その間に、途中で「やべえな。」って思つたときに、少しずついろんな書類や履歴書を作っているんな会社を送ったりして、100社まではいかないんですけど。東京や仙台にはよく出していました。

自分で会社を作ることを決意する

東ヨーロッパの会社と日本の会社をコーディネートする仕事を見つけたと思つたら、これも不採用だった。

その時に私が思つたのは、私にぴったりの仕事でも不採用ということであれば、私のことを誰もいらねえんじゃないか、と。考えるに考えて結局頭の中ごちゃごちゃで、精神的にどうしようもないという感じになったら空手で見つけたんです。さつとずつさつとずつ、びやつこずつ、やればなんとかなるということ。そうか、毎日毎日少しずつやれば少しずつ上手になる。少し頭が治つてき始めて、誰も私のこといらねえなら、じゃあ自分でやるしかないぞ、私が欲しい会社を作るしかない。それで、考えて考えて、うちの人に相談したんです。天使のような方に。「どうする？会社起こしたいと思つてる。どう思う？」と聞いたら、「うん一つだけ。あのお、オレのひもになるな！以上。」

それ貴重なご意見だった。ある意味やり放題じゃん。で、何するの、って私がもう一回分析してどうしようどうしよう。名字をみるんですよ。私はタベルスキっていう名字です。あの名字は本物なんです。いろんな好きがあるけど、私はたまたまタベルスキだからやはり食品じゃないか、神様は私に言ってるじゃないか。この名字で。日本に来たら、た

だのタベルスキがちよつと意味のつくタベルスキなんです。だから、忘れられないんですよ。で、私食品何が好きかなと思って、その時、日本に来たら、15年前はソーセージあまりおいしくなかったんです。それで、私もポーランドの環境を皆さんのために持つてこようかなと思ったんですよ。皆さんが毎日いいもの食べられるようになればな、と思ったんですよ。

サラミの輸入販売に失敗し

ソーセージ作りを始める

ポーランドのサラミの輸入販売を始めて3年。軌道に乗るかと思われたが、豚コレラの発生やBSE（狂牛病）の発生で頓挫する。

あつたもんでね。一社目だめだ、二社目だめだ。そして今度、私がやった輸入も3年頑張つて結局だめだ。やっぱりポーランドさ帰ろうかな。

なんとか乗り越えねばなんねえな、と思つて。お客様に挨拶しに行ったときに、大曲の「肉のわかば」さんはお客さんでした。その社長に、「こうなったよ。」と言つたら、彼は普通に「それで?」「そういうことになつたら、作ればいいじゃん。」「だって...」「マイケル、おめ、ポーランドだべ。ポーランドはうまいソーセージあるよね。おまえポーラ

ンド人でしょ。だから、うまいソーセージ作れるでしょ。」「はあ。」「作ればおれたち売から、作つてけるよな。」「私はその時に、「はい、作ります。」「と約束して、それが今の会社の始まり。

私が彼の所で、朝7時から午後1時まで肉の配達してました。パートです。横手店でやつたんで。1時に終わつて、飯食つて、それで2時から家の車庫でソーセージ作つてたんです。大体2時からまあ夜の10時までかかるんです。何だかんだスモークの時間やら何やら、慣れてないところ、それ、ずーとやつてたんです。半年なんです。梅雨から始まつたんで、夏は車庫が60℃。だけど、しょうがない。最初はやっぱり犬でも食べられないソーセージ。大変でした。

工場を持つ

味の素のサポートもあって少しずつ少しずつソーセージ作りがうまくなる。その後生産を増やすために国の補助金をもらつて横手市に工場を持つ。

第一工場が、横手でスタートしました。ゼロからスタート、何回もなんですけど。工場は、私、DIYで全部作つたんです。事務所作つて。建物の中借りて、壁壊して全部作つたんです。一人で毎日行つて、壁作つたんです。

それ作つたら、今度機械が来たんです。で、一応この機械を組んだんですね。組んでボタン押せば何か動くんだけど、その動きが正常なのか異常なのか判断できないですよ。充填機だと前に腸とか入れてソーセージが出てきてるので、設備があつて、それにはめて押せば出てくる。はず!の所が全然うまくいかない。1日目は、ソーセージが2kgしかできませんでした。ずっと腸が割れて。2kgだと、うちの車庫の工場以下ですね。その日の夜は、自殺しようかと思いました。マジで、本当に。それから次の日5kg、次の日10kg、ちよつとずつ分かつてきたから、徐々に、徐々に。そこからスタートだったんですよ。



秋田発ソーセージ革命

最初の1年間で2200万円売り上げる。2年で横手市から出て、大仙市に工場を持つ。生産を始めて、ちょうどこの5月で満5年となる。

皆さんに分かってほしいのは、うちの会社が、マイケルが何かできたとか、マイケルが何か頑張った、何か特徴があつて、何かこう、それでいけたのは、ゼロですからね。ゼロなんです。皆さん、私が会った人が、マイケルしようがねえな、っていう気持ちから入って、私のこと世話してるだけなんです。結局、みんなの力で会社が少しずつ進むんです。いろんな人が力を入れてこんなふうにしてうちの会社が今進んでいるんです。そこがまず一つなんです。何もできなくても何とかみんな頑張ってっているから、進んでいる感じです。今は社員も含めてそういう気持ちがないと、結局、食品会社って何か一つでもあれば一瞬で潰れるんです。

特別支援学校とか、そういう施設とかがしょっちゅう見学に来たり一緒に授業やってんです。「見学に来れば、みんな消毒だし、仕事ならねえよな。こんなのやめればいいね。」って私に言うんですけど。でも、私は、「馬鹿なこと言うんじゃない。うちは地域の中のみんなが頑張った会社だから、みんなのニーズに応えなきゃいけない。それが大事だから。」

そこは金じゃねえ。そこがうちは今までお世話になってるから。」

私のミッションとしては、「秋田発ソーセージ革命」なんで。秋田で作った物、品質のいい物を今も「香燻」とか「シャウエッセン」とかにぶつけて、どうやって勝てるか、そこが一番のチャレンジ。うちの商品見たことあると思うんですけど、例えば1,000円で3個となると、333円なんですよね。「香燻」だと278円。そうすると、50円ですね。うちと大手の差が。だから、どれぐらい頑張ってるか。理解してもらいたいです。普通だと2倍とか3倍なんですけど。うちは負けな。機械入れて投資して、効率を上げて…ミッションは、皆さんが毎朝これうまいな、この値段でこんなうまいもん食べられる会社なんだ…こういう会社になりたいんですよ。強い秋田の強い会社になりたい。

研究発表

Ⅱ「5歳児教育相談会」を

立ち上げてⅡ

湯沢雄勝退職校長会 大山 史子氏

はじめに

平成27年3月に退職し、翌4月から湯沢市教育委員会の非常勤「就学支援コーディネーター」として7年間勤め、この3月で退任し

た。その間に「5歳児教育相談会」を立ち上げ、子どもたちのよりよい就学へ向けた支援活動をしてきた。

1 園と小学校を訪問して

(1) (園訪問より) 特別支援の正しい知識がある専門家でもないで「お子さんのことで専門機関に相談してみませんか。」など口に出せない。疾病異常のある子・やや知的な遅れがみられる子・不明瞭な発音の子・行動や情緒的で課題のある子が増加傾向にある。

(2) (小学校訪問より) 入学してから、その子に合った指導や対応が間に合わず、二次障害的な行動が出てくる。事前に把握していれば、特別支援学級入級や特別支援教育支援員を付けるなど対策を講じることができる。

子供の可能性を伸ばすために

5歳児教育相談会

お子さんが満5歳になったら…

5歳という時期は、様々な経験を通して社会性を養い、就学に向けて生活リズムや基本的な生活習慣を身に付けていく大切な時期です。そこで、満5歳になったすべてのお子さんと保護者の皆様を対象に、相談会を開催いたします。この会は、お子さんの成長の様子を確認し、保護者の皆様に早い時期から就学について考えていただき、必要に応じて今後の相談のきっかけにしていただくものです。なお、ご都合が付かない場合は、下記へご連絡ください。

【期 日】 誕生月毎に指定された相談日(裏面に記載)

【時 間】 受付13:30～ 開始14:00～15:30(終了予定)

【会 場】 湯沢文化会館 3階 会議室

【対象と内容】 誕生月ごとに指定された相談日

1か月前 案内状とアンケート用紙が届きます。当日までに記入し、ご持参ください。	受 付 お子さんは自分の名札を付けます。保護者の皆様はアンケート用紙をご提出ください。
	集 団 遊 び ルールのある遊びやクイズ等を行います。保護者の皆様は、周りのお子さんと交わる機会をご用意ください。
	教 育 相 談 いくつかの質問をします。その後、保護者の皆様からの発問や就学に関する相談をお受けいたします。

【お問い合わせ】 湯沢市教育委員会 学校教育課 〒012-8501 湯沢市佐竹町1-1
TEL.0183-72-2162 FAX.0183-72-8515

2 開催の概要

(1) 相談日までの動き

①年度始めに各幼稚園・保育園・こども園を訪問し、5歳児の状況把握

②誕生月の一ヶ月前、園を通じて案内状とアンケート用紙を配付

③湯沢市の健康対策課と対象児における配慮事項の確認

④前日、園から対象児への参加カード配付（現在は一週間前）

(2) 当日の動き

①指導主事・専門監・特支アドバイザー・特支コーディネーターらの打合せ

②こども未来課（子育て総合センターすこやか職員）による集団遊び

③親子とスタッフの3人による問診及び教育相談

④終了後、スタッフによるカンファレンス

3 横と縦へつなぐ

カンファレンスの内容を受けて、適切な関係機関を紹介する「横へつなぐ」と、よりよい就学へ導く「縦へつなぐ」を支援している。

(1) 横へつなぐ

例として幼児教室、ことばの教室から専門医、巡回相談、県立医療療育センターへ

(2) 縦へつなぐ

支援学校・支援学級・支援員によるサポートの特色を保護者に説明するとともに就学先がどこであれば子が伸びるかを共に考える。また、入学予定の学校に子どもの状況を知らせていく。また希望する保護者と一緒に学校見学をする。

4 6年間の変容

(1) 「午前の部」と「午後の部」を設け隔月に行うこととした。

(2) 参加率はほぼ100%と保護者の意識の高さがうかがえる。欠席の場合は次回開催日に参加してもらっている。

(3) 4年目の令和元年度から「今が大事！5歳児の育て方」と題した保護者向けの子育て講座を設けた。取り上げる内容は、睡眠、食、学習興味などである。新設当初は全くなかった「タブレットやスマホを見過ぎてどうしたらよいか」との相談が目立つようになった。

おわりに

「5歳児教育相談会」を立ち上げるということは、一から創る・新しいものを生み出す・makeではなくcreateである。これが実に楽しい仕事であった。湯沢市の実態に合った相談会を「こうしたらどうか」などと工夫して創りあげていくのが楽しかったし、教育は教育だけでは成り立たず、他の機関との連携を大切にしながら、それがとても勉強になり助けてもらった。この仕事は、38年間の教職経験を生かすことができた仕事で、退職者だから出来たと思う。そして地域や小学校との関わりの中で「まだ人の役に立つことがあった」とも感じた。退職はしても、「老化」という課題と付き合いながらも、何か子どもたちの役に立つことをしていきたいと思っている。

第48回 東北地区退職校長会協議会

岩手大会報告（概要）

コロナ禍により二年間延長を余儀なくされていた表記大会が、昨年十月十三日（木）に盛岡市「盛岡グランドホテル」で開催された。本県からは、高橋会長、伊藤副会長、高田常任理事、米澤事務局長の四名が出席した。

大会では「充実した生き方や地域の教育・文化の向上に資する活動はどうあればよいか」という協議題のもと、活発な討議がなされるとともに、宮城、福島、山形の三県より発表があった。

今回の大会は、岩手県もぎりぎりまで悩んだ末に、懇親会や宿泊なしの一日開催という形で開催された。また、講話が予定されていた全国連合退職校長会会長である入子祐三氏が、当日朝になって、急遽欠席となるハプニングもあったが、岩手県木村会長が、急遽ピンチヒッターとして講話するなど、岩手県の冷静な対応に感銘を受けた。

会の最後に、次年度の開催県となる宮城県より、令和五年十月十二日（木）・十三日（金）に仙台市「ホテル白萩」で開催予定であることが、二日間開催となることの願いを込めて報告された。なお、次年度の話題提供県には秋田県も含まれており、その準備も必要であることを再確認した。

会員のご逝去

(敬称略) 心からご冥福をお祈りいたします。

(99号以降)

氏名 年月日 住所

氏名 年月日 住所

氏名 年月日 住所

大里 廣明 4・11・27 鹿角市十和田毛馬内

池田 純雄 5・1・5 秋田市牛島

遠藤 祐吉 4・8・2 大仙市大曲日の出町

大畑 雅彦 5・1・22 鹿角市花輪

工藤 宣一 5・2・3 秋田市將軍野

今 達三 4・9・30 大仙市大曲田町

松下 充 4・8・3 大館市城西町

佐藤雄一郎 5・2・6 秋田市新屋

藤井 隆男 4・10・1 大仙市北長野

小川 四朗 4・9・29 大館市長坂

菅原 昭子 5・3・5 秋田市牛島

後松順之助 4・10・21 美郷町本堂城回

戸嶋 弘文 4・10・10 北秋田市坊沢

佐藤 淳一 4・7・6 由利本荘市桜小路

(正六位瑞宝双光章)

神成 重雄 4・11・4 北秋田市小森

木嶋 昭雄 4・7・17 由利本荘市久保田

石川寛次郎 4・11・28 大仙市角間川

小林 實 4・12・14 上小阿仁村小沢田

(從五位瑞宝小綬章)

坂本 繁 5・1・3 大仙市大曲上大町

大倉 慶治 5・1・4 北秋田市米内沢

井上 利昭 4・7・31 由利本荘市薬師堂

千田 清壽 5・1・11 美郷町土崎

中嶋 正三 5・1・10 大館市八幡沢岱

(從六位瑞宝双光章)

三浦 松夫 5・2・11 大仙市花館

永塚 金治 4・8・3 能代市河戸川

東海林良介 4・8・5 由利本荘市矢島町元町

鈴木 清 4・7・10 横手市清川町

信太 四郎 4・10・20 能代市住吉町

(從五位)

鈴木 誠 4・7・13 横手市上内町

永瀬 福男 4・10・25 三種町森岳

阿部 辰男 4・8・5 にかほ市象潟町

高橋丈四郎 4・7・22 横手市婦気

大塚 勇一 5・2・13 能代市河戸川

三浦 敏男 4・10・12 由利本荘市御門

小田嶋 穰 4・8・13 横手市本郷町

原田 孝明 4・12・8 潟上市天王

(從六位瑞宝双光章)

佐藤 雅子 4・12・9 横手市大森町

小玉啓太郎 4・12・14 男鹿市脇本浦田

宮本 秀孝 4・11・25 にかほ市畑

高橋 勲 5・1・14 横手市婦気大堤

小松 一夫 4・12・25 男鹿市払戸

國松東一郎 4・12・4 にかほ市象潟町

渡邊 敏夫 5・1・21 横手市大森町

佐々木 孝 4・8・7 東京都中野区

間杉 康一 4・12・6 由利本荘市小人町

佐藤 禎輔 5・1・23 横手市増田町

高橋 秀雄 4・8・7 秋田市泉

塚本 ワカ 4・12・13 由利本荘市中堅町

高橋 正蔵 5・1・26 横手市雄物川町

吉野 平保 4・10・29 秋田市手形

堀江 剛弘 4・12・18 由利本荘市西目町沼田

吉田 賢孝 4・10・16 横手市十文字町

近江 宏平 4・11・28 秋田市旭北

齋藤 善男 5・1・10 にかほ市平沢

前田 俊介 4・12・8 湯沢市愛宕町

櫻田 雄一 4・12・7 秋田市太平

阿部 重一 5・2・6 由利本荘市前郷

お詫び 会報第99号 大館北秋田退職校長会山田信雄

八柳 久夫 4・12・30 秋田市土崎

佐藤喜五郎 4・7・26 仙北市角館町小勝田

先生の訃報は誤りでした。深くお詫び申し上げます。

会員寄稿

じわり生きがい

このひととき

最後のご奉公



鹿角

田中忠美

定年退職して間もなく六年が過ぎようとしている。そのうちの後半三年間は、鹿角市先人顕彰館に勤めている。顕彰館の管理を任された組織に雇われた館長である。内藤湖南、和井内貞行、瀬川清子等の地元の先人たちの功績を、多くの方々に知ってもらいたく日々PRに努めている。令和四年度は、内藤湖南や和井内貞行が、テレビ局に取り上げられ、充実した年であった。

内藤湖南は、京都帝国大学の教授になった東洋学の世界の権威者である。本名は虎次郎、十和田湖の南に位置する郷土毛馬内への思いから湖南と称したという。また、父親との書簡のやり取りでは、「秋田県鹿角郡毛馬内」と書かず、「陸中国鹿角郡毛馬内」の宛先を貫いた。湖南は、明治・大正・昭和と生きた偉人であり、鹿角が秋田県に編入されて随分経っていたのだが、最後まで「陸中国」で通した。更に大学を退職後、京都に終の棲

家「恭仁山荘（くにさんそう）」を構えたが、そこは郷土毛馬内を彷彿させる場所だったという。内藤湖南は、世界にその名を轟かした人物でありながら、生まれ故郷に対して強い思いをもっていたのである。

内藤湖南をはじめとする先人たちの偉大さを、より多くの皆さんに広めることが、ここでの役目であろうが、地元住民の来館者が少ないことも悩みである。新規事業の開拓等ですれずつ成果が表れつつあるとはいえ、まだまだ不十分だろう。昨今は情報化の時代、テレビはもちろん、SNS等のメディア活用も大いに考えてみたい。でも、私の故郷への最後のご奉公はこれくらいにして、次の方にお任せしようと考えている。

(平成二十九年三月退職)

心の潤い このひととき



大館北秋田

藤嶋 勇人

「なんか熱っぽいな。」と感じて、熱を計ったら38.8度でした。葛根湯とちよつとお高いユンケル黄帝液を飲んで就寝したら、翌朝には37.0度以下がっていました。単なる風邪かなって思ったのですが、念のために病院に行つて検査をしたらコロナ陽性でした。

「とうとう感染したのか。7日間休まなけ

れば。これから熱が高くなったり、喉が痛くなったり、咳をしたりするのかな？」と多少不安を抱えながら休むことになりました。しかし、その後も平熱、喉は痛くない、咳も出ない毎日が続きました。

あまりにも退屈で、「孤独のグルメ」のシリーズを最初からプライムビデオで見ることにしました。主人公「井之頭 五郎」が誰にも気兼ねせず、ルールに縛られず、ただ自分の空腹を満たすということだけを考えて、一人で食事をするテレビドラマです。

ただそれだけ……でも、おもしろく、また次も見たくなります。五郎は料理を口に運んだ瞬間からもう夢中になります。その料理の背景を想像し、おいしさを五郎の豊かな感性で表現します。一人で自由に幸せそうに空腹を満たしながら己の感想を心の中でつぶやく五郎の食事に、私は憧れさえ抱くようになりました。

退職して「教育」の重圧とストレスから解放された今、何ともない日常の食事に、己の価値観が規準であつて、他人がどう感じるかは関係ないという幸福感を、「五郎」と一緒に感じる事ができました。

短期間でシーズン1からシーズン9まで走破しました。現在はほのぼのと心を潤してくれる過去のテレビ番組や映画を探し、しみじみと感動しています。

(令和三年三月退職)

育ジイ



能代市山本郡

川田 浩三

退職して8年目。無芸大食だが、健康面だけはと思い登山やトレッキングは継続し、新たに高校の同級生たちとバドミントン・硬式テニスを遊びレベルで始めた。コロナ禍で飲み会はさっぱり、喉が渇くので晩酌を多めにしている。r-GTPも異常なしで継続中。

孫二人の幼稚園がコロナ休園し預かることが多くなった。孫は大切だと思うが、保育士が園児の頭を殴ったなどのニュースにショックを受ける。コロナストレスも理由らしいがコロナウィルスも迷惑であろう。

今までは孫一人の保育園などの送迎などであつたが、ある時二人をみることになった。一人がシャボン玉をするといえば一人は散歩、一人が公園で滑り台をするといえばブランコなどなど、座っていると急に背中に乗ったりなど虐待(?)が続く。おやつを食べた後に「まだ腹ペコなの」と何回も要求し、膝の上で笑顔で食べる(母親には内緒)。何でも食べさせてくれるいい爺ジイになっているが、あちらも鋭い観察力を持っている。育ジイも大変である。

秘技は、撮りためていたEテレビの「機関車トーマス」。交代で見させてしばしの静けさ。夕方に何回もママはいつ迎えに来るのと

聞く。迎えに来た母親に抱きついていき、何事もなかったように帰っていく。少し寂しいが帰った後は安堵の晩酌。これがまたうまい。来週から娘一家の帰省。孫一人なので楽勝。経験豊富な育ジイになったと自負しているが……。ジイを大事にすると、生前贈与も、教育費贈与もあるよと心の中で思っている。(気持ちだけだが……) またおいで! 待っているよ。

(平成二十七年三月退職)

「細く長く」を目指して



男鹿市

今田 喜代

平成の終わりに退職し、その年の四月には開通したばかりの気仙沼大島大橋へ、夏には大塚国際美術館へと念願だった場所に足を運び、体力づくりにも取り組みました。ゆつくりと流れる時間の中で旧知の友との語らいに気力も充実したところで、音訳奉仕員養成講座(週に一度、年間三十回)を受講しました。

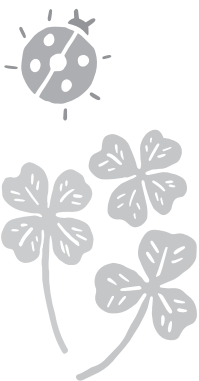
音訳とは、文字や図表などの情報を音声化する事で、秋田県点字図書館では、視覚に障害のある方のために録音図書を製作しています。以前から関心があった活動ですが、文の読み方や絵本、イラスト、写真、図表、漫画等の音声化に対する要求水準は予想以上に

高く、同じ思いをもつ方々と励まし合いながらようやくと修了にこぎつけました。

館から依頼された本は、地名や人名、難読漢字の読みを調べ、アクセントや鼻濁音、間等に気をつけて自分のペースで読み進めます。音声合成技術の発達により、文字を読み上げるソフトも種々開発されていますが、利用される方々の肉声への要望はとても高いので、需要があるのならばと取り組んでいます。好きな時間帯にできることや、自分では選ばないような本と出合えることも魅力です。

今読んでいるのは寄宿学校を舞台にした推理小説で、会話文の多さに四苦八苦していますが、録音後の音声フレーズをパソコンで展開し、口中音、呼吸音、ピッチ等を確認しながら自己校正を始めると、時が経つのも忘れて没頭している自分があります。シリーズものの三作のうちの一作を読み終えて、今後の視力、聴力、滑舌を考えると心許ない思いもありますが、細くても長く活動していけたらと思っています。

(平成三十一年三月退職)



酒と切り絵とおちよこと女



秋田市

大山 重幸

古希を迎え、現在楽しんでいる事を河島英五の「酒と泪と男と女」をもじって紹介します。

【酒】県産酒が大好きで、コロナ禍前は酒蔵をよく訪問していました。浅舞酒造の故森谷康市杜氏から、酒造りの楽しさや可能性を伺ってからはますます日本酒が好きになり、友人と県産酒を応援する「テロワールの会」を立ち上げました。(ただうまい酒を飲みたいだけです) 市の退職校長会でも日本酒研修会を開催し、最高のお酒を味わっています。

【切り絵】今年も卒園記念に切り絵のしおりを制作中です。認定こども園に勤務して八年、毎年、卒園する年長児に切り絵のしおりをプレゼントしてきました。もう七百枚以上作ったでしょうか。嬉しそうな園児の顔を見ると、こちらも幸せな気持ちになります。切り絵を趣味として四十余年。主に、子どもたちの活動や豊かな表情を題材にして切り絵を制作してきました。今後も、一つでも作品を増やしていけるよう努力していきたいと思っています。

【おちよこ】退職して陶芸教室に通い、主に酒器(おちよこや銚子)に挑戦しています。酒匠の故平野庫太郎先生はよく、「粘土遊びを楽しんで」と話されていたので、その

教えを守り十年経っても粘土遊びの腕前です。週一回の陶芸教室ですが、どう焼き上がってくるのか、毎回楽しみでなりません。

【女】女と言っても、チワワのメスで「あんず」と言います。現在、七ヶ月のお転婆娘。先輩犬のうめ吉に跳びかかってはおもちゃを奪い、家中大騒ぎ。「人の物は俺の物」と言うドラえもんに出てくるジャイアンみたいな女の子です。でも、二匹のワンコを見ているだけで楽しくなり、毎日癒やされています。(平成二十六年三月退職)

地域史に学びながら



由利本荘・にかほ

佐々木 克也

退職後、本荘郷土資料館の資料調査員の仕事をしていることもあって、本荘地域文化財保護協会に入会しています。また、本荘由利地域史研究会には発足以来の会員でもあります。どちらの会も活動の拠点が本荘郷土資料館ですので、事務局員を仰せつかっています。

どちらの会員の方も、地域史のオーソリテイの皆様です。その地域や時代についてピンポイントで深く研究なさっている方が殆どです。私は中学校社会科の教師でしたが、歴史に関しては本当に広く浅い知識しかないとを痛感しています。

退職後は、いくらか時間がありますので、自分の住んでいる西目地域について、実際に outcomes かけてまとめることが今のライフワークの一つです。時間に縛られることなく、疑問を解決する事は、とても楽しく充実した時間になっています。まとめた論考を会誌にも掲載させていただきました。

先日は、由利地域にある、国指定の文化財にもなっている森子の大物忌神社から始まる、滝沢口登拝道を修験者の気持ちになって登りました。息が切れて休憩していて、ふと立ち枯れ柏の木を見てびっくりです。根元からびっしり「なめこ」が生えていたのです。修験者なるもの「なめこ」ごときに心を惑わされてはいけないと思いつつも、すでに「なめこ」の採取に夢中の自分がおりました。

コロナ禍での行動制限、ロシアのウクライナ侵攻、インフレの進行などあまり良いご時世ではありませんが、自然の中に出ては、悪しき事を忘れる毎日を過ごしています。

(令和二年三月退職)



春には退職六年生(短歌風にて)



大曲仙北

柴田 衛

退職一年

退職し 年金出るのは 三年後
残り二年の 妻のヒモとなり
草むしり スギナに手こずり 汗流す
父母の苦勞を 少し理解し
手ぐすねを 引いて待ってた 先輩と
(妻に) 呆られるほど ラウンドする

退職二年

ヒモ生活 朝食夕食 アイディアは
テレビの「あさいち」ノートにうつす
朝ドラを 日に三作品 ルーティーン
大相撲・国会 ペース乱れる
卵焼き ワンパターンの 弁当を
文句も言わず 妻も退職

退職三年

妻の退職 祝い長崎 旅の予定
謎のコロナ禍 無念の断念
遊びすぎ? 肘痛膝痛 痛風も
通販ウイスキー 飲みすぎ原因?
夏のうち 遊び三昧 気づいたら
雪降りはじめの頃 すること探せず
道路脇 ふと目にとまりし 看板に
時給八百何円の 看板発見
履歴書記入 「志望の理由」 迷わずに
アイラブ焼き鳥 新米老職人誕生

退職四年

老職人 一人前には ほど遠く
ゴルフの試合と 両立難し
コロナ禍も 少し落ち着き 孫たちと
顔を合わせる 盆や正月

退職五年

古き庭 リフォームし 妻夢かなう
新しき庭に 薔薇サキホコレ
ついに持つ 共通の趣味 ゴルフ
妻と出かける コースや練習
退職六年目に向けて

老職人 二年半だが そろそろ卒業
新しき退職一年目に 夢また膨らむ
(平成三十年三月退職)

コロナだからできた



横手市

石山 寛

いくつかお手伝いしているボランティアも
コロナ禍の中あまり活動が出来ず、昨年は毎
週一回の当番。そして家から出る必要のある
行事も夏以降の予定。それまで家の中で粗大
ゴミ扱いされるのも・・・と、いうこと
で以前から気にしていた屋根の状態を春の雪
消えと同時に確認することに。

雪下ろし以外で屋根に上ることはほとんど
なかったので、メジャーと鉛筆を手に屋根に。

面積を測定しながら何力所かのさびの発生と
コーキングが必要な部分を発見。塗装も劣化
が進み手をかける必要あり。数年前、門柱の
ペンキを塗りに難儀したので億劫だったが、
思い切って自分で取り組んでみることに。

まずはユーチューブで作業の内容と手順を
確認し、必要な物品をホームセンターで準備。
ペンキ・刷毛・ローラー・シンナー・滑りに
くい靴・足場は組まないで命綱、等々。こ
の計画の時間が一番楽しいのかも。というの
は、準備したペンキの蓋を開けると言う色と
違い、買い足す羽目に。かなり落ち込みなが
ら、ケレン作業(ヘラやブラシで汚れを削り
落とす作業)で屋根に当てこすり。これが思
いのほか時間がかかり電動工具に頼る事に。
そのため延長コードが必要になり馬鹿になら
ない出費が・・・。

他の用を片付け、天気と相談しながら結局
二か月以上かかり作業終了。初めてにしては
マズマズということにしておこうか。ただ、
一人で屋根に上っている間は「いつ落ちるか
心配で家から出られなかった」と女房の一言
にアラアラ。三年経ってもコロナは「新型」
と言われるが、我が家の屋根もせめて三年は
保って欲しいが・・・。

(平成二十三年三月退職)



完食！完走！横手かまくらライド



湯沢雄勝

門 脇 博

退職してから始めたことの一つに、自転車（ロードバイク）があります。歩いて移動できる範囲は限られています。歩いて移動できれば何倍もの違った風景に出会うことができます。車に自転車を積んで出かければ気持ちよく走れる場所だけ自転車で行くことができ、電車などを利用しての輪行も楽しめます。そして、自転車レースやライドへの参加も。令和四年九月十八日（日）、「かまくら・ライド2022」に初参加しました。コロナ禍のため三年ぶりの開催。ミドルコース（53km）にエントリー。スタート前のワクワクドキドキ、心地よい緊張感を久しぶりに味わいました。田園風景の中で感じる秋の風、坂を登り切った後の下り坂の爽快感、そして何より四か所のサービスエイドでの食の美味しさ。醤油ラーメン・横手焼きそば（もちろん目玉焼き付き）・ババヘアアイス・濃厚プリン・ぶどうジュース・焼きシイタケ・いぶりがっこクラッカークリームチーズのせ・冷たいパック甘酒・スイカジェラート全て完食！そして、パンクしたり、坂道で自転車を降りて押したりすることもなく無事完走！新しい自分に出会うことができた充実のライドでした。2023シーズンは「かまくら・ライド」だ

おめでとうございます

（順不同・敬称略）

祝 叙 勲

氏 名	現 住 所	功 勞	種 類	受章日
平川 次郎	北秋田市伊勢町	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	4・8・1
安達 正直	大館市比内町扇田	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	4・10・1
神成 重雄	北秋田市小森	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	4・11・1
今川 孝一	大館市東台	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	4・11・1
出川 幸三	北秋田市鷹巣	教育功勞	瑞宝 双光章	4・11・3
佐藤 三七	北秋田市小森	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	5・1・1
笠井 利通	能代市機織軒ノ目	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	4・11・1
菊地 重昭	秋田市外旭川	教育功勞	瑞宝 双光章	4・11・3
草薙 隆	秋田市飯島	高齢者叙勲	瑞宝 双光章	5・2・1
小野寺 幸雄	横手市市平鹿町	教育功勞	瑞宝 双光章	4・11・3

けでなく他のライドにも挑戦しようと思っています。

「孫とキャンプをしながら猪苗代湖一周もいいな」「中央研修で行った筑波の『つくば霞ヶ浦りんりんロード』走りたいな」「憧れの『しまなみ海道』で四国にわたるぞ」雪よせの後、炬燵に入りながら妄想を膨らませていきます。

（平成三十年三月退職）

【あとがき】

初代会長高瀬先生は会報第四号の巻頭言で会報の役割を次の様に述べておられます。「会報は、いうまでもなく会員相互の情報交換の唯一の機関です。これを守り育てる責任は、会員一人ひとりの双肩にあります。われわれはその自覚の下に、進んで自由に率直な意見を出し合い、会報の意義を十分に発揮したいものです。」

これからも会員と会員、郡市と郡市のかけはしとして、さらに内容の充実を図ってまいります。